

図書館展示9月●2003

没後100年●瀧廉太郎とフーゴ・ヴォルフ



フーゴ・ヴォルフ 1860-1903



瀧廉太郎 1879-1903

期間●9.8-9.30

場所●図書館ブラウジングルーム

没後 100 年 瀧廉太郎とフーゴ・ヴォルフ

小関康幸

100 年前の 1903 年、42 歳のフーゴ・ヴォルフがウィーンで、そして若干 23 歳の瀧廉太郎が大分で永眠しました。二人の足跡を駆け足で追ってみることにします。

1860 年 3 月、スロヴェニアのドイツ語圏でヴォルフ誕生。小地主の子どもで、幼時からピアノとヴァイオリンを学び、ヴォルフ家の家庭の管弦楽団(驚き!)ではヴィオラを弾いたそうです。どんな機会に、どんな曲を演奏したのでしょうか? そして音楽にのめりこんでいったこの少年は、1875 年、ウィーン音楽院に入学を果たしました。

1879(明治 12)年 8 月、東京市芝で瀧廉太郎が産声をあげました。ちなみに同年 10 月に音楽取調掛が創設されますが、87(明治 20)年 10 月に東京音楽学校と改称・改編されていきます。瀧の子ども時代は、内務省の役人だった父吉弘の勤めの関係で、横浜、富山、東京、大分と転居し、94(明治 27)年 5 月に上京します。そしてまず芝唱歌会に、つづいて 9 月東京音楽学校の予科に入学します。

1877 年 3 月、ウィーン。ヴォルフは学校当局といざこざを起こし退学します。78 年に恋人ができ、この時期から歌曲が生み出されていきます。79 年にはブラームスを訪問し助言を得ようとしますが、答えを聞いて失望し、反感をもつにいたります。のちにヴォルフが音楽批評を書いた時期にもブラームスには手厳しかったそうですから、根に持つタイプだったのかもしれませんが。やがて 89 年に〈メーリケ歌曲集〉(53 曲)、〈アイヒェンドルフ歌曲集〉(20 曲)、90 年に〈ゲーテ歌曲集〉(51 曲)、91 年に〈スペイン歌曲集〉(44 曲)、92 年に〈イタリア歌曲集〉(22 曲)と規模の大きな歌曲集を立てつづけに出版していきます。さぞかし充実した創造活動と人生を送ったのだらうと想像しますが、実は 92 年から 3 年間、オリジナル作品が 1 曲も書けない状態が続いたり、その後、筆をとったと思ったら精神に破綻をきたして病院に入ったりします。性病に苦しめられていたのです。

1895(明治 28)年 7 月、瀧は東京音楽学校の予科を卒業し、9 月に本科(専修部)に進学しています。翌 96(明治 29)年 12 月にはラインベルガーの〈バラード〉(ピアノ曲)を日本初演しています。97(明治 30)年、〈日本男児〉〈春の海〉〈散歩〉を作曲、「砧」という詩を書いています。98(明治 31)年 7 月、音楽学校の本科(専修部)を主席で卒業し、同年 9 月には研究科にすすみます。99(明治 32)年 9 月、音楽学校ピアノ授業嘱託に、翌月には音楽学校授業補助を命じられます。1900(明治 33)年、ピアノと作曲の研究のためドイツへの留学命令が下り(実際の出発は翌年)、有名な〈花〉を含む合唱組曲〈四季〉が出版されます。この年は、東くめが口語体で初めて童謡を書きましたが、相談を受けた瀧はこれらの詩に作曲し、翌 01(明治 34)年、〈鳩ぼっぼ〉や〈お正月〉を含む『幼稚園唱歌』が出版されます。同年 10 月、瀧はライプツィヒ王立音楽院を受験し、合格します。…と喜んだのも束の間、病魔にさいなまれ 12 月に入院。なんという不条理!

そして 1903 年、二人は他界しました。蛇足ながら 1904 年 6 月、瀧の一周忌を目前にして、父吉弘が 63 歳でその一生を閉じました。

Hugo Wolf

フーゴ・ヴォルフ 1860-1903

スロヴェニア生まれ、1875年ウィーン音楽院に入学。ピアノをヴィルヘルム・シェンナーに、和声と作曲をローベルト・フックスとフランツ・クレンに師事した。77年に同校を退学し、78年頃から歌曲を作曲。ワーグナーに傾倒し、85年、オペラ『お代官様』を作曲。84年から86年にかけては音楽批評も手がけた。88年から92年にかけて大規模な歌曲集を続々と発表したが、身体健康と精神状態が悪化し、晩年に構想していたオペラを完成できずに没した。



ヴォルフの手紙

1887～99年 メラーニエ・ケッヒェルトへの手紙

Letters to Melanie Kochert, Schirmer Books, 1991 請求記号 ● C55-057

1879年ケッヒェルト夫妻と知り合う。夫人のメラーニエはヴォルフからピアノを教わる。1884年からヴォルフとメラーニエの恋は人知れず進行する。このお互いの愛情と理解はヴォルフが死ぬまで続く。メラーニエはヴォルフの死の3年後、ウィーンの住居の4階から投身自殺をする。ヴォルフは全歌曲の手稿譜をメラーニエに献上した。

1892年1月9日 オスカル・グローエへの手紙

Brief an Oskar Grohe vom 9. Januar 1892. Hugo-Wolf-Gesellschaft, 1985. 請求記号 ● C51-641

マンハイムの裁判官オスカル・グローエ。ヴォルフのオペラをマンハイムで上演のために尽力した。

1893～98年 フーゴ・ファイスストへの手紙

Brief an Hugo Faisst .H. Schneider, 1996. 請求記号 ● J86-089

フーゴ・ファイスストはシュトゥットガルトの法廷弁護士で、アマチュアのテノール。彼はヴォルフの信奉者であり後援者でもある。

1894～95年 フリーダ・ツェルニーへの手紙

Brief an Frieda Zerny. Musikwissenschaftl, 1978. 請求記号 ● C42-947

マインツ・オペラのソプラノ歌手。メラーニエという愛する人がいながら彼女と密通する。

1895～98年 ローザ・マイレーダーへの手紙

Brief an Rosa Mayerder. Rikola, 1921. 請求記号 ● C5-694

女性解放論者でジャーナリスト。アラルコン原作(三角帽子)を基にした台本(代官様)を執筆。このオペラは1896年6月7日に初演された。

ヴォルフの楽譜 歌曲

《友人》(アイヒェンドルフ歌曲集)より 1888.9.26 自筆譜のファクシミリ
国際フーゴ・ヴォルフ協会 1987 請求記号 C51-642

1880～88年作曲 20～28才 (アイヒェンドルフ歌曲集)

作曲 1888年8-9月に13曲を作曲。以前に作曲したなかから7曲を選び、全20曲を完成。

アイヒェンドルフ(1788-1857)はドイツの詩人。彼の詩はシューマンとの結びつきが深

く、深い森の神秘感、身にしみる郷愁、自然との交換、孤独な自我意識を主体としているが、ヴォルフはこの点でシューマンと競合するのを避け、もっとノンシャラントに生きるよろこび、ピカレスクな冒険、学生の歌と遍歴へのよろこび、ユーモアなどを基調にした新しいひびきを開拓している。初版は1889年ラコム社。

1888年作曲 28才 メーリケ歌曲集

作曲 1888年2月から5月までに43曲、4ヵ月後に10曲の全53曲を作曲。

メーリケ(1804-75)はドイツの詩人。「メーリケ歌曲集」は伝統的な連作歌曲集とちがって筋のようなものはない。時間的な物語展開よりは、空間的、絵画的展開を見せ、さらにこれまで抒情に偏していたリートの世界に風刺、機智、ユーモアといった人間の精神にかかわる一面、また超越的、神秘的な世界との遭遇を浮かび上がらせ、人間性の多面的な把握を試みようとしている。初版はウィーンのヴェツェラー社。

1888～89年作曲 28～29才 〈ゲーテ歌曲集〉

作曲 1888年11月から89年2月にかけて50曲。10月に最後の1曲を仕上げ全51曲を完成。

〈メーリケ歌曲集〉が等身大の人間世界をあらわしているとすれば、〈ゲーテ歌曲集〉は顕微鏡的、宇宙的な人間世界に肉迫した作品だといえよう。またゲーテの深い人生知を音楽化するというむずかしい課題にも成功している。初版は1890年ラコム社。

1889～90年作曲 29～30才 〈スペイン歌曲集〉

作曲 1889年10月から90年4月にかけて全44曲。

ガイゼル(1815-84)とハイゼ(1830-1914)がスペインの民謡詩をドイツ語に訳した〈スペイン歌曲集〉は聖歌篇と世俗篇とが別々にまとめられている。…ヴォルフは自分の禁欲的な側面を聖歌篇で、自由と解放への憧れを世俗篇で、両面をバランスをとって表現できたわけである。初版は1891年ショット社。

1890～96年作曲 30～36才 〈イタリア歌曲集〉

作曲 1890年9月から作曲を始め第1巻22曲は1891年。2巻24曲は1896年に完成。

ハイゼ(1830-1914)がイタリア人の詩をドイツ語に訳した「イタリア歌曲集」。南欧の開放的な空気のなかに融け込み、若い男女の恋のやりとりを主体とする「オペラ・リート」ともいべき新しい歌曲集形式の実現を目指した。詩とひびきとの結合が洗練のきわみをゆき、作曲法は音素材を最小限に切りつめ、極度に凝集された効果を発揮し、それでいて繊細さとゆたかさを失っていない。初版1巻は1892年ショット社。2巻は1896年ヘッケル社。

* 各曲の解説は中川原理編『声楽曲鑑賞辞典』(東京堂出版)より

大正時代出版されたヴォルフの楽譜 セノオ音楽出版

《隠栖》VERBORGENHEIT《メーリケ歌曲集》二見孝平訳詞

大正6(1917) 請求記号 F12-774

《祈願》GEBET《メーリケ歌曲集》二見孝平訳詞 大正8(1919) 請求記号 F16-668

Taki Rentarou

瀧 廉太郎 1879(明治 12)-1903 (明治 36)

東京生まれ、明治 27 年高等師範学校付属音楽学校(後の東京音楽学校)に入学。ピアノを幸田延・ケーベルに師事。明治 31 年ピアニストとしてデビュー後同校のピアノを指導。作曲活動も開始する。明治 33 年ピアノと作曲の研究のため文部省留学生を命ぜられる。男子の音楽留学生として第 1 号であった。翌年ライプツィヒ音楽院に入学したが、肺結核を病み翌年帰国。郷里の大分で 23 歳の若さで没した。



滝廉太郎の本

遠藤宏『瀧廉太郎の生涯と作品』(音楽文庫 11)
音楽之友社 昭和 42(1967) 請求記号 C19-302

昭和 25 年に瀧の短い生涯が物語や小説になる前に正しい伝記を書き残しておきたいという意図で出版された。前半は伝記で後半は楽譜。

宮瀬睦夫『瀧廉太郎傳』 関書院 昭和 30(1955) 請求記号 C18-998

属啓成『滝廉太郎』(音楽写真文庫)
音楽之友社 昭和 36(1961) 請求記号 C18-247

著者は滝廉太郎の資料や写真の状態がこれ以上悪くならないうちに、早急に記録の必要性があるということから出版された。

小長久子『滝廉太郎』(人物叢書 151)
吉川弘文館 昭和 43(1968) 請求記号 C18-994

著者は大分大学名誉教授。昭和 27 年に『滝廉太郎とその作品』を出版。その後、瀧の親友鈴木毅一の資料を発見したことから『楽聖滝廉太郎の新資料』(昭和 38)を出版。本書は豊富な資料をもとに作曲家・瀧廉太郎を知ることができる。

『瀧廉太郎 資料集』(大分県先哲叢書)
大分県教育委員会 平成 6(1994) 請求記号 C58-988

大分県先哲叢書は大分が生んだ先哲の業績を明らかにする目的で刊行。この 1 巻は瀧廉太郎に関する資料の集大成である。国内はもとより、留学先のライプツィヒや入院した病院も訪れ資料を収集。瀧研究には欠かせない 1 冊。

松本正『瀧廉太郎』(大分県先哲叢書)
大分県教育委員会 平成 7(1995) 請求記号 C59-910

大分県先哲叢書の評伝シリーズ。『瀧廉太郎 資料集』の最新資料をもとに書かれている本格的伝記。

滝廉太郎の楽譜 歌曲

《新撰小学唱歌》

編集・萩原太郎 発行・中村鐘美堂 明治 32(1899)11 月 請求記号 C39-367 電子複写版
小学、児童のための適切な歌がないことから企画された。唱歌集の意図は軍歌のような節のもの、またわかりやすい唱歌。東京音楽学校の卒業生、在校生たちの協力で作ら

れ、瀧廉太郎は東京音楽学校研究生として作曲している。作品は《我が神州》。

《 中学唱歌 》

著作/発行・東京音楽学校 発売・共益商社楽器店 明治35(1902)4月
請求記号 J99-027

中学校の唱歌教育のために編纂された。出版は明治34年3月。明治22年に編纂された『中等唱歌集』は半数が外国曲。であったが、今回は大半が邦人の作品。編纂に際して作曲と作歌を文学者・教育者・音楽家、さらに一般にも求め200種から選定委員会が38種を選んだ。その中に瀧廉太郎の作品が3種選ばれた。《荒城の月》(箱根八里)《豊太閤》。委嘱以外の作曲の募集は1人3種以内で当選者には1種5円の賞金。瀧は3種当選したので15円の賞金を受けた。

《 幼稚園唱歌 》

共益商社楽器店 明治34(1901)7月 電子複写版 請求記号 C39-489

東基吉・クメ夫妻、瀧廉太郎、鈴木毅一の4人が企画・編集。明治32年頃、女子高等師範学校の付属幼稚園で批評掛りを担当していた東基吉はやさしい子供の歌をもとめていた。妻クメが後輩の瀧廉太郎を紹介したことからこの唱歌集が誕生した。20曲中、瀧は16曲を作曲。留学するまでの1年半かけてほとんど瀧一人で準備し、出発直前に出版社に渡した。この唱歌集は当時としては画期的な企画であった。曲が四季の順に並べられ、やさしい口語の歌詞で、唱歌集として伴奏が付けられたのはわが国最初のものである。

《 四季 》

共益商社書店 大正8(1919) 請求記号 F17-308

組歌《四季》は共益商社楽器店から明治33年(1900)11月に出版された。当時は外国の曲に原詞とはまったく内容のことになった日本の歌詞を当てはめて歌われていた。瀧はこの状況を遺憾に思い、「我歌詞に基きて作曲したるもの内二、三を公にし、以て此道に資する所あらんとす。」と序文に書いている。また、単音唱歌の世界に、合唱曲に伴奏を付けたこの曲の登場は日本の洋楽史上での意義は深い。楽譜のサイズも当時は文庫判が多い中、菊倍判(現在の楽譜の大きさ)で印刷された。曲は《花》《納涼》《月》《雪》。

《 荒城の月 》 山田耕作 編曲

セノ音楽出版 大正9(1920) 請求記号 F15-875

裏表紙の解説より「山田耕作が渡米に際し、早世の天才、瀧廉太郎氏の靈腕に感じ涙で編んだのがこの曲です。伴奏の妙、切々として古城の昔を語るやうです。」

《 納涼 》 《 月 》 《 雪 》 (共益ボーカルピース) 共益商社書店 昭和2(1927)

請求記号 《納涼》F2-420、《月》F11-207、《雪》F11-209

《 花 》 鈴木次男 編曲 (共益合唱楽譜) 共益商社 昭和22(1947) 請求記号 F11-217

2003.9.8～9.30
没後100年 瀧廉太郎とフーゴ・ヴォルフ

国立音楽大学附属図書館 2003.9.16